



**Data**

監督: ロバート・エガース

出演: アニヤ・テイラー＝ジョイ/  
ラルフ・アイネソン/ケイ  
ト・ディッキー/ハービー・  
スクリムショー/エリー・グ  
レインジャー/ルーカス・ド  
ーソン

### ■■■ショートコメント■■■

◆私は昔からホラー映画が嫌い。その理由は恐いから。子供の頃は、恐い映画をみるとそれがよく夢の中に出てきたものだし、それは大人になってもあまり変わらなかった。それが私の正直な「告白」だ。ホラー映画として有名な古典的映画は、『オーメン』『ローズマリーの赤ちゃん』『エクソシスト』だが、実は一般に楽しい子供向け童話とされている、『ヘンゼルとグレーテル』『赤ずきんちゃん』等のグリム童話も本当は恐いホラーもの・・・？

2015年のサンダンス映画祭で監督賞を受賞した本作のロバート・エガース監督の次回作として、ホラー映画史に残る『吸血鬼ノスフェラトゥ』（1922年）のリメイク監督に大抜擢され、主演したアニヤ・テイラー＝ジョイはM・ナイト・シャマランの『スプリット』のヒロインに大抜擢されたようだ。そして本作は、新感覚のダーク・ファンタジー・ホラーといわれてファンの圧倒的な支持を得たそうだが、さてその内容は？

◆京都大学の政治学者、佐伯啓思氏の一連の著作によれば、今は「アメリカの衰退の始まりの時代」らしいが、さてアメリカのはじまりとは？私たちが中学高校の歴史で習ったそれは、イギリスの清教徒（ピューリタン）たちが新大陸に渡ったことに始まるはず。以降、アメリカはイギリスとの独立戦争（1775～1783年）、南北戦争（1861～1865年）、第一次世界大戦（1914～1918年）、第二次世界大戦（1935～1945年）等を経て、いつの間にか世界唯一の超大国になったが、さて今は・・・？

◆本作の時代は1630年。舞台は新大陸アメリカのニューイングランド。いわゆる、アメリカへの入植者の時代だ。17世紀にイギリスで起きた清教徒革命（ピューリタン革命）は、Wikipediaによれば、狭義では「1641年から1649年にかけてイングランド・スコットランド・アイルランドで起きた内戦・革命」を、広義では「1638年の主教戦争から1660年の王政復古までを含み、「大反乱」「三王国戦争」もしくは名誉革命とあわせて「イギリス革命」「ブリテン革命」とも呼ばれている。」そうだ。そんな時

代にイギリスから新大陸に渡った清教徒（ピューリタン）たちは、独自のコミュニティを形成し神の教え忠実に守っていたが、父親のウィリアム（ラルフ・アイネソン）と母親のキャサリン（ケイト・ディッキー）を中心とするこのファミリーは、ある宗教上のイザコザのためにコミュニティから追放されたらしい。イザコザの詳細はわからないが、長女のトマシン（アニヤ・テイラー＝ジョイ）や長男で弟のケイレブ（ハービー・スクリムショウ）、双子のマーシー（エリー・グレインジャー）、とジョナス（ルーカス・ドーソン）、そしてキャサリンのお腹の中にいる赤ちゃんたちを率いて敢然とコミュニティを去ったウィリアムは、ある土地でファミリーだけの孤独な入植生活を開始することに・・・。

◆「ダーク・ファンタジー・ホラー」と呼ばれた本作の前半は、タネ明かしをしないまま不気味な音楽と共に不気味な雰囲気を充満させていくが、後半からは不気味な黒山羊が登場させたり、魔女らしき存在が登場させたりしながら、少しずつトマシンの「魔女性」をスクリーン上に示していく。しかして、トマシンは本当に魔女・・・？

この手の現象を信じ込む習性は一般的に女性の方が強いようで、トマシンが「いない、いないパー」をしている間に、生まれたばかりの赤ん坊を連れ去られたと悲哀に暮れている母親は、今やすっかりトマシンが魔女だと信じ込んでいた。ファミリーの長たる父親はさすがにもう少し冷静で科学的だった（？）が、さて、彼の対応は・・・？

お仕置きの意味を込めて、トマシンを一晩中小屋の中に閉じ込めておいたのに、翌朝起きてみるとトマシンが小屋から出てきていたり、黒山羊が自分めがけて突進してくる姿に直面すると、やっぱりトマシンは我が娘ながら魔女・・・？

◆トマシンたちファミリーが入植したのはごく1部の土地で、その裏側には広くて不気味な森があった。グリム童話やM・ナイト・シャマラン監督の『ヴィレッジ』（『シネマルーム6』310頁参照）等の舞台になっているように、17世紀当時の森は人間にとって未知の世界だったから、そこに迷いこめば魔女に翻弄されても仕方がない。したがって、トマシンと弟のケイレブの2人が、誘われるように森の中に入っていった後に起きたある悲劇とは・・・？ここらあたりになると、本作はまさに魔女映画満開となるが、同時にファンタジー色ともマンガチックな映像ともとれるシーンが増えてくるので、それに注目！その結果、68歳の私はそれをあまり恐がることなく鑑賞できたが、それっていいこと？それとも残念なこと・・・？

2017（平成29）年8月16日記